

01. ドイツ語の世界

1. インド・ヨーロッパ語とはなにか

そもそもヨーロッパでは、太古の昔にはどのような言葉が話されていたのか、いろいろと研究されてきました。18世紀末、当時イギリス領であったインドのカルカッタ最高裁判所にイギリスから派遣されていたウィリアム・ジョーンズという判事が、仏典にもちいられているインドの古い言葉のサンスクリット語を学んでいたところ、このサンスクリット語とヨーロッパのギリシャ語やラテン語が多くの点で文法や単語に共通点があることに気づきます。

このことがきっかけとなって研究が進み、有史以前にインドや中央アジアからヨーロッパに広がった地域で使われていた言語は共通の根幹となるコトバを持っていて、これから分かれて現在のそれぞれの国の言語になった、という考えが一般的になりました。この共通のコトバを「インド・ヨーロッパ語」とよび、そのコトバに属するものを「インド・ヨーロッパ語族」あるいは「印欧語族」といいならわしています。

このインド、中央アジアからヨーロッパほぼ全域にまたがる大言語グループ「インド・ヨーロッパ語族」の起源は、約9千年前のトルコの農耕民族の言語にさかのぼるらしいという説が、最近の共通単語の多さにもとづく言語間の近縁関係の分析研究により、有力になりました。それによると、まず約8700年前、トルコ付近にいた農耕民族「ヒッタイト」の言語が登場し、その後、7千年前までにギリシャ語を含むグループやアルメニア語を含むグループが分かれ、5千年前までに英語、ドイツ語、フランス語などにつながる数グループができた、と考えられています。

2. ローマン語系とゲルマン語系

この「インド・ヨーロッパ語族」の中で、地中海を中心に使われていたコトバを「ローマン語系」とよんでいて、このグループからギリシャ語やラテン語が成立し、さらに近世に至ってイタリア語、フランス語、スペイン語などが派生しました。また、さらに北の地域である北海やバルト海沿岸に広がったコトバは「ゲルマン語系」と名づけられ、ドイツ語、英語、オランダ語、あるいは北欧諸国のスウェーデン語やデンマーク語などが生まれたのです。つまりドイツ語と英語はいわばひとつの古いゲルマン語から出来上がった方言であって、親戚同士のコトバといえるでしょう。

3. ドイツ語と英語

ローマ帝国の滅亡のきっかけとなった、5世紀半ばの「ゲルマン民族大移動」によってドイツに住んでいたゲルマン民族の一部であるアングロ族やサクソン族はイギリスに侵攻して、先住民族のケルト人を征服してスコットランドへ追いやり、これ以来イギリスはゲルマン系のアングロ族やサクソン族の国となりました。そこで使われていたコトバはもちろんどイツ語系のコトバである「アングロ語」や「サクソン語」で、従って今でもイギリスのひとびとのことを「アングロ・サクソン人」という言い方であらわすこともありますし、英国を指す "England" という単語も "the land of the Angles" つまり「アングロ人の国」に由来していることもここから来ているのです。

ところがそれからおよそ500年後の1066年に、今のフランスのイギリス対岸に住んでいたノルマン人がイギリスのアングロ・サクソン人を制圧して、この後300年にわたってこの国を支配します。そのためドイツ語系のコトバとフランス語系のコトバが混じり合うことになりました。

例えば、被支配者アングロ・サクソン人の農民が飼っている牛はドイツ語系の "cow" とよばれていますが、支配者であるノルマン人がそれを食べる時にはフランス語系の牛を意味する "beef" と名前を変えてしまいます。

ドイツ語の痕跡を留めている英語の単語をほんの一部だけ挙げてみましょう。

英語	ドイツ語	英語	ドイツ語
<i>father</i>	Vater	<i>mother</i>	Mutter
<i>son</i>	Sohn	<i>daughter</i>	Tochter
<i>brother</i>	Bruder	<i>sister</i>	Schwester
<i>sun</i>	Sonne	<i>moon</i>	Mond
<i>earth</i>	Erde	<i>star</i>	Stern
<i>water</i>	Wasser	<i>light</i>	Licht
<i>go</i>	gehen	<i>come</i>	kommen
<i>drink</i>	trinken	<i>eat</i>	essen
<i>old</i>	alt	<i>young</i>	jung
<i>long</i>	lang	<i>new</i>	neu

このように今でもたくさんのドイツ語語源の単語や文法が英語には残っていて、ドイツ人が英語を、イギリス人やアメリカ人がドイツ語を学ぶときにはある程度は助けになるようですが、すでに英語の基礎を学んでいるわれわれ日本人も同様で、英語を援用しながらドイツ語を学べばより理解を助けることになるでしょう。また、英語ではどうしてこういう単語や文法がみられるのかという点も、ドイツ語を理解するとその疑問が解けることも少なからずあるはずです。

4. ドイツ語と日本語

日本は鎖国を解いた明治時代には欧米の文化を積極的に取り入れましたが、特にドイツからは短期間のうちにたくさんのドイツ語が日本に入り、いまでは日本語におきかえずにそのままドイツ語で通用する単語として定着しているものも数多くあります。

ゼミ	Seminar	バイト	Arbeit
カルテ	Karte	ウイルス	Virus
アレルギー	Allergie	ノイローゼ	Neurose
ヒステリー	Hysterie	ワセリン	Vaselin
メスシリンダー	Messzylinder	シャーレ	Schale
ウラン	Uran	ナトリウム	Natrium
ワルツ	Waltz	セレナーデ	Serenade
ヤッケ	Jacke	リュックサック	Rucksack
ゲレンデ	Gelände	ボーゲン	Bogen
メルヘン	Märchen	ハンバーグ	Hamburg

ドイツで製造されていて、日本へ輸入されている製品もたくさんあります。

ベンツ	Benz	ポルシェ	Porsche
ライカ	Leica	ツァイス	Zeiss
アディダス	Adidas	プーマ	Puma
アスピリン	Aspirin	マイセン	Meissen

(ツァイスとマイセンは正確にはそれぞれ Zeiß, Meißen とつづります)

このようにドイツ語は日本でも意外にたくさん使われていることがわかるでしょう。